

「あいち はぐみんプラン2020-2024」（目標）の進捗状況について

資料2

評価の目安

| | | |
|---|----|-------|
| ◎ … 計画期間において等分に進捗すると仮定した場合と比較し、上回っている又は同水準のもの | 16 | (46%) |
| ○ … 上記の水準には至っていないが、計画の目標水準に向かって推移しているもの | 13 | (37%) |
| △ … 計画策定時と同水準で推移しているもの | 2 | (6%) |
| × … 目標水準に向かって推移していないもの | 4 | (11%) |
| — … データがないなどの理由により評価できないもの | 0 | (0%) |

全体の評価(計画策定後4年目)
「◎」の16項目、「○」の13項目を合わせると、35項目の83%を占めており、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい状況下であったが、おおむね順調に推移していると考えます。

参考(計画策定後3年目)
「◎」17項目、「○」12項目、「△」1項目、「×」4項目、「—」1項目

| 基本施策 | 項目 | はぐみんプラン策定時 | | 目標 | | | |
|------|-------------------------|------------|---|------|--|------|---------------|
| | | 年度 | 数値 | 年度 | 数値 | | |
| 1 | キャリア教育の推進 | ① | キャリア教育の視点で体験活動を実施している小学校の割合 | 2018 | 74% | 2024 | 100% |
| 2 | 就労支援 | ② | ヤング・ジョブ・あいち利用者の就職者数 | 2018 | 6,680人 | 2024 | 6,748人 |
| 3 | 思春期保健対策の充実 | ③ | 学校等と連携して思春期教育を実施している市町村の数 | 2018 | 40市町村 | 2024 | 全市町村 |
| 4 | 結婚支援 | ④ | 出会いの場を提供するイベント実施数 | 2018 | 1,133回 | 2024 | 1,500回 |
| 5 | 安心・安全な妊娠・出産の確保と不妊治療への支援 | ⑤ | 新生児集中治療管理室(NICU)の整備数 | 2019 | 189床 | 2024 | 増加 |
| 6 | 働き方改革とワーク・ライフ・バランスの推進 | ⑥ | ファミリー・フレンドリー企業の登録数 | 2019 | 1,371件 | 2024 | 増加 |
| | | ⑦ | 年次有給休暇の取得率 | 2018 | 52% | 2024 | 57% |
| | | ⑧ | 男性の育児休業の取得率 | 2018 | 4.6% | 2024 | 7.6% |
| 7 | 男女共同参画の推進 | ⑨ | 6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間 | 2016 | 83分 | 2020 | 100分 |
| | | ⑩ | 男性の働き方の見直しを促進する事業を実施している市町村の数 | 2018 | 18市町村 | 2024 | 全市町村 |
| 8 | 妊娠・出産期からの切れ目ない支援の充実 | ⑪ | 子育て世代包括支援センターを設置している市町村の数 | 2019 | 42市町 | 2024 | 全市町村 |
| 9 | 保育の受け皿拡充と保育人材の確保 | ⑫ | 待機児童の解消 | 2019 | 258人 | 2024 | 解消 |
| | | ⑬ | 保育士等の確保数 | 2019 | 26,887人 | 2024 | 30,000人 |
| 10 | 多様な保育サービス、児童の放課後対策の拡充 | ⑭ | 病児保育事業の実施市町村数 | 2018 | 45市町村 | 2024 | 全市町村 |
| | | ⑮ | 放課後児童クラブの待機児童の解消 | 2019 | 863人 | 2024 | 解消 |
| 11 | 子どもの貧困・ひとり親家庭への支援 | ⑯ | スクールソーシャルワーカーの配置人数(県立高等学校・県立特別支援学校) | 2019 | 7人(高等学校) | 2024 | 増加(高等学校) |
| | | | | 2019 | 1人(特別支援学校) | 2024 | 拠点校配置(特別支援学校) |
| | | ⑰ | スクールソーシャルワーカーを配置している市町村の数(公立小・中学校) | 2019 | 24市町 | 2024 | 全市町村 |
| 12 | 子どもの健康の確保 | ⑱ | 生活困窮世帯・ひとり親家庭の子どもの学習支援事業の実施市町村数 | 2018 | 40市町 | 2024 | 全市町村 |
| | | ⑲ | 小児集中治療室(PICU)の整備数 | 2019 | 22床 | 2024 | 26床 |
| 13 | 学校教育の充実 | ⑳ | 幼稚園・保育所・認定こども園との接続に関する研究・研修を行っている市町村の数 | 2018 | 26市町村 | 2024 | 全市町村 |
| | | ㉑ | スクールカウンセラーの配置人数(県立高等学校・県立特別支援学校) | 2019 | 56人(高等学校) | 2024 | 増加(高等学校) |
| | | | | 2019 | 1人(特別支援学校) | 2024 | 拠点校配置(特別支援学校) |
| 14 | 青少年の育成 | ㉒ | 子ども・若者支援地域協議会を利用できる県内の子ども・若者の割合 | 2019 | 65.8% | 2022 | 70% |
| 15 | 児童虐待防止対策の推進 | ㉓ | 養育支援訪問事業を実施している市町村の数 | 2018 | 46市町村 | 2024 | 全市町村 |
| | | ㉔ | 市町村子ども家庭総合支援拠点を設置している市町村の数 | 2019 | 7市 | 2024 | 全市町村 |
| 16 | 社会的養育の体制整備 | ㉕ | 施設等入所児童に占める里親等委託の割合 | 2018 | 15.9% | 2024 | 20% |
| 17 | 障害のある子どもへの支援 | ㉖ | 個別の教育支援計画の作成率 | 2018 | 小学校特別支援学級 99.7% 小学校通常の学級 67.6% 中学校特別支援学級 99.1% 中学校通常の学級 68.7% | 2024 | 100% |
| | | ㉗ | 児童発達支援センターの設置市町村数 | 2018 | 19市町村(17市町及び1圏域) | 2024 | 全市町村 |
| 18 | 外国人の子どもへの支援 | ㉘ | 外国人の子どものプレスクール実施箇所数 | 2019 | 16箇所 | 2024 | 増加 |
| | | ㉙ | 多文化子育てサロン設置箇所数 | 2019 | 6箇所 | 2022 | 15箇所 |
| 19 | 子育てしやすい居住環境の整備 | ㉚ | 乳幼児の事故予防対策をしている家庭の割合 | 2018 | 74.5% | 2024 | 増加 |
| 20 | 安心できるまちづくりの推進 | ㉛ | キッズ・ゾーンを設定する市町村の数 | 2019 | 0市町村 | 2024 | 全市町村 |
| 21 | 地域の多様な主体との協働推進 | ㉜ | 子ども食堂の箇所数 | 2019 | 140箇所 | 2022 | 200箇所 |
| | | ㉝ | 家庭訪問型子育て支援(ホームスタート)を実施する団体数 | 2019 | 1団体 | 2024 | 11団体 |
| 22 | 県民・企業が一体となって応援する機運の醸成 | ㉞ | 子育て家庭優待事業登録店舗数 | 2019 | 9,739店舗 | 2024 | 10,000店舗 |
| 23 | 経済的支援の充実 | ㉟ | 理想の子ども数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる人の割合 | 2018 | 51.3% | 2024 | 47.7% |

| 2023年度までの進捗 | | |
|--|----|--------------------------------|
| 数値 | 評価 | 時点 |
| 79.9% | ○ | 2023年3月31日 |
| 5,245人 | × | 2024年3月31日 |
| 41市町村 | △ | 2023年3月 |
| 366回 | × | 2024年3月31日 |
| 187床 | × | 2024年3月31日 |
| 1,732件 | ◎ | 2024年3月 |
| 66.7% | ◎ | 2023年7月31日調査 (2024年2月27日公表) |
| 25.7% | ◎ | 2023年7月31日調査 (2024年2月27日公表) |
| 114分 | ◎ | 2021年10月調査 (2022年8月31日公表) |
| 19市町 | ○ | 2023年3月31日 |
| 54市町村 | ◎ | 2023年3月31日 |
| 52人 | ○ | 2023年4月1日 |
| 29,965人 | ◎ | 2023年4月1日 |
| 50市町村 | ○ | 2024年3月31日 |
| 570人 | ○ | 2023年5月1日 |
| 10人 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 2人 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 42市町村 | ○ | 2024年3月31日 |
| 44市町 | ○ | 2024年3月31日 |
| 22床 | △ | 2023年12月1日 |
| 36市町村 | ○ | 2023年3月31日 |
| 62人 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 5人 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 73.6% | ◎ | 2024年3月31日 |
| 50市町村 | ○ | 2023年3月 |
| 54市町村 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 21.9% | ◎ | 2024年3月31日 |
| 小特別支援学級 100.0% 小通常の学級 70.6% 中特別支援学級 100.0% 中通常の学級 73.6% | ○ | 2023年5月1日 |
| 33市町村(31市町及び2圏域) | ○ | 2024年3月31日 |
| 20箇所 | ◎ | 2023年3月31日 |
| 20箇所 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 77.6% | ◎ | 2023年3月 |
| 5市 | ○ | 2024年4月1日 |
| 518箇所 | ◎ | 2024年5月1日 |
| 10団体 | ◎ | 2024年3月31日 |
| 9,927店舗 | ○ | 2023年3月31日 |
| 62.4% | × | 2024年3月 |

「あいち はぐみんプラン2020-2024」(目標)の進捗状況について

| 基本施策 | 目標 | | 令和5年度の進捗状況 | | |
|---------------------------|--|---|------------|----|---|
| | 現況(計画策定時) ⇒ | 目標 | 数値 | 評価 | 評価の理由 / 取組状況 / 今後の推進方策 |
| 2 就労支援 | ② ヤング・ジョブ・あいち利用者の就職者数 | 6,680人 (2018年度) → 6,748人 (2024年度) | 5,245人 | × | <p>【評価の理由】 雇用回復傾向、求人検索のオンライン化などにより来所者数が減少しており、ヤング・ジョブ・あいち経由の就職者数も減少している。</p> <p>【取組状況】 目標達成に向けて、関係機関と連携しながら就職支援に取り組んだ。</p> <p>【今後の推進方策】 企業活動は回復傾向にあり、求人数の増加が見込まれることから、若年者の就職支援を継続的に行っていく。</p> |
| 3 思春期保健対策の充実 | ③ 学校等と連携して思春期教育を実施している市町村の数 | 40市町村 (2018年度) → 全市町村 (2024年度) | 41市町村 | △ | <p>【評価の理由】 改善しているが、目標を達成していないため。</p> <p>【取組状況】 各地域の保健所を中心に、市町村や教育現場等と連携して思春期教育を実施している。</p> <p>【今後の推進方策】 各地域での思春期教育の推進のため、引き続き市町村や教育現場等の連携に努める。</p> |
| 4 結婚支援 | ④ 出会いの場を提供するイベント実施数 | 1,133回 (2018年度) → 1,500回 (2024年度) | 366回 | × | <p>【評価の理由】 イベント実施数が昨年度と比較し増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が相次ぎ、計画策定時と比較し大幅に減少したため。</p> <p>【取組状況】 イベント実施団体等を「プラチナ出会い応援団」、「出会い応援団」として登録。ホームページで婚活イベント情報を掲載。</p> <p>【今後の推進方策】 「出会い応援団」が実施する婚活イベントに対する補助を行うことや、企業や地域団体等に結婚支援の取組の提案等を行う「結婚コンシェルジュ事業」を行うことなどにより、結婚支援に積極的な団体との連携を一層図る。</p> |
| 5 安心・安全な妊娠・出産の確保と不妊治療への支援 | ⑤ 新生児集中治療管理室(NICU)の整備数 | 189床 (2019年度) → 増加 (2024年度) | 187床 | × | <p>【評価の理由】 病床数が減少したため。</p> <p>【取組状況】 愛知県地域保健医療計画にてNICUを有する施設数の維持を計画している(2024年3月公示)。</p> <p>【今後の推進方策】 NICUにて質の高い新生児医療を効率的に提供できるよう図る。</p> |
| 12 子どもの健康の確保 | ⑯ 小児集中治療室(PICU)の整備数 | 22床 (2019年度) → 26床 (2024年度) | 22床 | △ | <p>【評価の理由】 病床数が計画策定時と同水準だったため。</p> <p>【取組状況】 愛知県地域保健医療計画にて増床を計画している。</p> <p>【今後の推進方策】 地域性を考慮の上、PICUの整備を進める。</p> |
| 23 経済的支援の充実 | ⑳ 理想の子ども数を持ってない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる人の割合 | 51.30% (2018年度) → 47.70% (2024年度) | 62.4% | × | <p>【評価の理由】 コロナ禍による経済状況の悪化や物価高騰の影響等により、計画策定時と比較して11.1%増加したため。</p> <p>【取組状況】 児童手当の支給や第三子以降児の保育料の無償化等のほか、低所得者を対象とした県独自の給付金である「愛知県子育て応援給付金」の創設など、子育て家庭への経済的支援を実施している。</p> <p>【今後の推進方策】 引き続き子育て世帯への経済的支援を行っていく。</p> |